

学会発表を経て

2023 年の夏に初めて学会での発表をしました。ポスター発表をしたのですが、多くの先生方が私の発表を聞きに来てくださってとても嬉しかったのを覚えています。そして、さまざまな専門分野の先生方と議論を深めることができ、自分にはない視点から助言をいただいたことで、非常に有意義な時間を過ごすことができました。さらに、この経験から私の研究に向き合う姿勢も変化したように思います。最も大きな変化は、研究に対する責任感が強まったことです。

卒業研究発表会は、時間制限のある中で同学年の学生や関わりのある先生からの質問に対して答えるという形式だったので、緊張も少なく、質問数にも限りがありました。しかし、ポスター発表は、知らない先生が多くて緊張する中、持ち時間が 30 分と長く、その間はほとんど質疑応答をしていました。指摘されそうな箇所については、事前に準備をして回答ができるようにしていましたが、準備をしていない箇所についての質問もたくさんいただきました。その中で 1 つだけ十分に答えることができない質問がありました。自分の研究について聞かれているにもかかわらず、答えることができないというのは非常に悔しいものでした。この経験から、研究計画を立てる時と、考察を考える時に今まで以上に時間をかけようと思えました。今も修士論文のための研究を進めていますが、卒業研究の時よりも先生やゼミのメンバーに多くの意見をもらって、よりよい研究となるように努めています。今年は、就職活動もあり、昨年よりも忙しくなりますが、精いっぱい日々の研究に取り組みたいと思います。